

## 「防災」が変わる。「防災」を変える!

メディアや様々な防災情報で繰り返し流れる『**不要不急の外出は控えてください!**』のメッセージにもかかわらず人は外出をする。なぜ?

そもそも「不要不急」とは判りやすく言い換えれば「重要ではなく、急ぎでもないこと」という意味です。つまり「不要不急の外出を控える」というのは、重要でなく、急ぎでもないのであれば、外出をしないようにということです。そうすると「必要があり、かつ急ぎの用事があるとき」「必要ないが、急ぎの用事があるとき」「急がないが、必要な用事があるとき」であれば、外出はできるとも受け取れるのです。

命に関わる情報なのに、なぜこの様な情報伝達が起こるのでしょうか?ここには「日本人の勤勉さ」という方もいらっしゃるが、実のところ自分の普段の生活に直接関わる誰か(会社・学校)から『**休め**』といわれなければ、休むことが「**悪**」に捉えられてしまっているのではないのでしょうか?命に関わることでも「私だけ休んでいたらどうしよう」「休んだら怒られてしまうのでは」と不要な心配をしてしまっているような気がします。ここには、発展途上の情報社会が存在します。それは「**自分の必要とする正しい情報が入手できないこと**」に、ひとつの原因があります。

現代社会では、スマホ・タブレット・パソコンなどで使用可能な『**SNS: ソーシャル・ネットワーキング・サービス**』があります。代表的なものに LINE・Facebook・Instagram があり、日常の中では非常に便利に使用されていますが、これら SNS が災害時や災害発生直前に正しく使われていないのではと考えられます。

『**命を守る情報サービス**』であったとしても、受信する側の人々が、必要とするかどうかにかかっています。ここに問題が潜んでいるのです。

例えば、先日関東地方を直撃した強い台風15号を検証してみると、台風の影響でJRや私鉄各社は始発から、計画運休を行うと前日に告知しているにもかかわらず「知らなかった」という人が多い。台風の影響で早めの運休が告知されていても改札の前で「どうしよう」とたたずむ人も多くいた。東京ディズニーリゾートでは、閉園時刻を通常より1時間早めに変更していたが「知らなかった。残念だ」という人もいます。

皆さん考えてみましょう。ちょっとスマホでSNS

や各種ニュースや情報を見ていれば、簡単に判っていたことです。しかし「知らなかった」と。本当でしょうか?多分、知っていた人は多かったと思いますが、自分のこととして捉えていなかったことに原因があります。「私の乗る電車はいつも通りだろう」「台風は逸れるだろう」「私は大丈夫だろう」「早めに帰れるだろう」といった根拠のない心の情報操作を、都合良く自分で思い込んでいることに原因があります。

ここには「**発信者側の切迫感(危機感)**」と「**受信者側の誤った余裕感(エゴイスティック)**」に大きな隔たりがあるのだと考えられます。なぜ隔たりができるのか?ここには、正しい情報を入手した「**発信者**」と、情報を入手する気がなく情報を自分勝手に読み替える「**受信者**」という構図に原因があります。ここでスポットを当てたいのは「**発信者側**」。受信者はそもそも素人であり、専門用語も知らない人が多い。にもかかわらず、難しい言葉で難しく解説し発信をする。だから聞こうとしない。大切な情報へ耳を傾けてもらえるような「**興味の湧く情報発信**」を心掛ける必要があります。こういうと「**そんなに丁寧に伝えなければならぬのか**」とお叱りを受けるかも知れませんが、実際、多くの市民は「**誤った余裕感(エゴイスティック)**」を持っています。だから少しでも判りやすい情報発信をしなければなりません。

多くの人は、身近に感じられない危機に対して危機感を持つのが苦手です。夏休みの宿題をギリギリまでやらないのもそのひとつ。嫌なことをギリギリまで先送りするのは、人間の精神構造といっても過言ではありません。我々人間は、将来の利益より目先の利益を優先する傾向にあると実験でも明らかになっています。頭では「**このままではまずい**」と判っていても、危機が差し迫って実感を伴わないとなかなか切迫感(危機感)を感じることはできないのが普通なのです。

しかし「**誤った余裕感(エゴイスティック)**」を持った人たちでも、一度我がことと捉えるとSNSを利用して一気に拡散します。情報拡散能力は逆に「**切迫感を持った発信者(行政や気象庁)**」よりも、大きな力を持っていることは間違いありません。そう考えると地域の情報発信も「**我が事**」として捉えることができる情報発信を心掛ける必要があります。

でも、命に関わる災害犠牲者(特に水害)は、このSNSを適切に使えていない人が、犠牲になっている確率が非常に高い様です。次回は**災害犠牲者**について

